

小中一貫教育 研究発表グループ

旭丘中学校・旭丘小学校・小竹小学校

中学校区の特徴

3校とも、丁寧な指導、近隣大学との連携による芸術分野の指導に特長がある。小中一貫教育校設立に向け、小中、小中間の連携を強化している。

目指す15歳の姿

- ・未来を切り拓く力を獲得するための基礎的・基本的な学びを身に付け、課題解決に主体的に取り組むとともに、自分の考えを豊かに表現できる生徒
- ・心身共に健康であり、自身の在り方を他者との関係性において深く内省し、よりよいかかわりを求めることで、自他ともに大切にできる生徒
- ・学校生活における一体感、地域や関係各校との絆を大切に、新たなよき伝統を築こうとする進取の姿勢を育む生徒

1 研究主題

自ら学び、自ら考え、主体的に活動できる子供の育成
～「目指す15歳の姿」を通して～

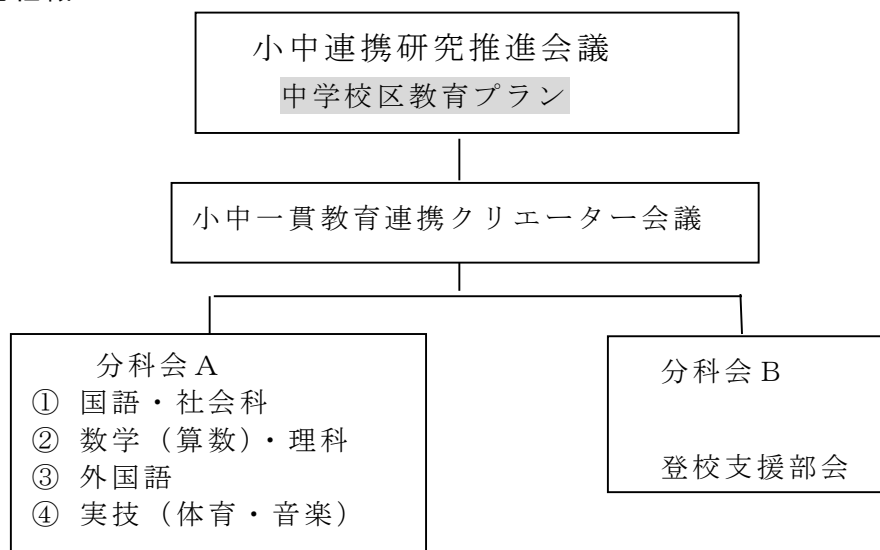
2 主題設定の理由

本グループでは、前年度に教職員間でアンケートでの調査を行い、「各校の長所と課題」や「9年間の教育を通して身に付けさせたい力」について、各学校の現時点での考えをまとめた。今年度は、「課題改善プログラムの充実」と「学習の基礎・基本に対する考え方の統一」、「豊かな関わりをもたらすための授業や児童・生徒間の交流の在り方」といった課題を共有し、授業研究や、児童・生徒の交流活動を通して、9年間を見通した教育の在り方について研究を進めていくために、上記の課題を設定した。

3 グループにおける小中一貫教育推進上の課題

- ・児童・生徒の発達段階を踏まえ、9年間の見通しをもった指導の連携
- ・系統的な教科指導
- ・小中の連携行事や児童・生徒・教職員の交流形態の在り方
- ・交流活動の内容と回数、学年や時期の設定

4 研究組織



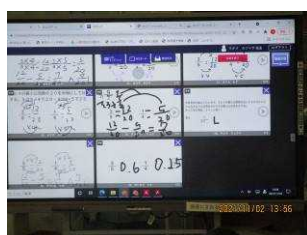
5 研究計画

月 日	行事等
5月17日(月)	第1回小中一貫教育研修 (Web会議システム) 各部会の代表は旭丘中学校でグループ会議
6月17日(木)	第1回校区別協議会 会場：旭丘中学校 研究組織・研究計画について確認
7月21日(水)	三校合同研究会
9月30日(木)	第2回小中一貫教育研修 (Web会議システム) 11月の研究授業に向けて各部会の内容検討
11月2日(火)	第2回校区別協議会 場所：旭丘小学校・小竹小学校 4分科会で第5・6学年の研究授業と協議会を実施
1月20日(木)	三校合同研究会 場所：旭丘中学校 今年度の研究発表の内容を共有し、次年度に向けて各分科会での計画立案
2月 3日(木)	練馬区教育実践事例発表会

分科会	11月2日 第2回校区別協議会 講師	
国語・社会	練馬区教育委員会指導主事	窪 直樹先生
数(算)・理科	元東京都算数研究会会長	荒木 正志先生
外国語	練馬区教育委員会指導主事	石黒 小百合先生
実技(体育)	練馬区教育委員会教育アドバイザー	赤木 宏行先生
実技(音楽)	光が丘夏の雲小学校校長	牧野 光洋先生

検証学年	1年目(令和3年度)		2年目(令和4年度)		3年目(令和5年度)	
	第5学年	第6学年	第6学年	中学校 第1学年	中学校 第1学年	中学校 第2学年
旭丘小	社会		外国語			
小竹小	1組	2組	1組	2組		
	算数(少人数)		体育	音楽		
旭丘中						

ICT機器を取り入れた研究授業の様子



旭丘中学校・旭丘小学校・小竹小学校

グループの特色ある取組

1 令和3年度の重点取組

【重点取組1】「目指す15歳の姿」の実現に向けた取組の実践または研究

- ・第1回校區別協議会での情報共有（6月）
 - ・小中一貫教育研修での、研究授業打ち合わせ（7月）
 - ・第2回校區別協議会での、研究授業（11月）
- 本グループでは、今後3年間、児童の変容をつかむために、同一学年での授業研究を行う。

令和3年度→第5、6学年

令和4年度→第6学年、中学校第1学年

令和5年度→中学校第1、2学年

<各分科会の成果と課題>

主題に迫ため児童の学習に対する「主体性」をいかにして育むかを追求するべく、その手だてを指導案に明示した。小竹小、旭丘小の2校で以下の5つの部会ごとに検証授業を実施した。

国語・社会部会「日本の工業生産と貿易・運輸」（旭丘小第5学年）	
手だて	I C Tの活用（輸送手段の特徴について学んだことを活かし、オクリンクでクイズを作らせる）
成果	タブレットを使ったクイズ作りは、児童同士の意見交換が活発に行われていた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・児童に身近な社会に関する話題をもっと取り入れたい。 ・数ある資料の中から、本当に必要な物に絞って児童に提示し、タブレットで共有させたい。 ・社会的な見方や考え方につながる発問の工夫が今後必要である。

数学（算数）・理科部会「分数のたし算、ひき算を広げよう」（小竹小第5学年）	
手だて	自力解決の重視、I C Tの活用（タブレットを活用し自分の考えを図表など用いて表現させる）
成果	自他の考えを共有・比較する場面では、書画カメラやタブレットを使うことで、考え方の違いや、同一部分がより分かりやすくなった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が自分で言葉を選んで質問したり、自分の考えをまとめたりする場面が増えると良い。 ・児童の生活に即した授業の導入や展開をこれからも模索する。

外国語部会「Let's think about our food.」（旭丘小第6学年）	
手だて	I C Tの活用（タブレットで会話場面を事前に作成）、指導のスムーズステップ化
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・発表型の授業を通して英語で表現することに対する自身を育めた。 ・前時迄の指導の手立て（カードの活用、ペアで伝え合う活動）が有効である。
課題	・小中の連続性ある指導の必要性を踏まえ、活動を振り返る際の視点を小中で統一できると良い。

実技部会①体育部「体づくり運動『体の動きを高める運動』」(小竹小第6学年)	
手だて	I C Tの活用(タブレットで活動の様子を撮影)、自分に合った運動選択を考えさせる場面の設定
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットで撮影した自分の動きを見ることで、児童が客観的に課題を捉え、更なる課題設定に活かすことができていた。 ・「自分が高めたい動き」を自分で選択できることが、主体性を引き出す有効な手段になっていた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の振り返りや、共有したい情報を学級で見合う時間を活動時間内に計画的に取り入れていく。

実技部会②音楽部「豊かな表現を求めて」(小竹小第6学年)	
手だて	I C Tの活用(タブレットで感想を提出、集約し共有を図る)、板書・ワークシートの工夫(児童一人一人の思いを表現させ、共有するため)
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを活用し、歌い方や表現の仕方を共有することができていた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・集まった情報や意見がかなり多くなることもあるので、何をどのように共有させるのか、事前の計画が重要である。 ・音楽を言語化して理解することも必要だが、言語化に重点を置くのではなく、歌い方や体の動かし方での理解も大切にしたい。

【重点取組2】

いじめ防止や不登校の解消など豊かな心の育成に向けた取組の実践または研究

今年度は、新型コロナウイルス感染症予防対策のため、交流事業は中止となったが、小中学校での情報交換を、校区别協議会の際などに行った。また、小学校で支援が必要とされた児童の情報を共有するために、支援シートの保存方法や、項目の設定の見直しを行い、一度でも支援に関わった児童の情報を確実に残して伝える体制を整えた。今後は、「ふれあい月間」で作成した、いじめ防止標語やシンボルマークの学校間での掲示など、新しい生活様式に即した活動を予定している。

2 令和3年度の成果と今後の方向性

(1) 成果

- ・研究主題「自ら学び、自ら考え、主体的に活動できる子供の育成」に迫る取組を三校合同分科会において推進し、成果と課題を共有できた。
- ・I C Tを取り入れた授業の在り方について研究を進めることができた。(右写真)

(2) 今後の方向性

- ・「目指す15歳の姿」をより具体的にしていく必要がある。9年間の教科としての到達点だけでなく、生活指導も含めた児童・生徒の姿を明らかにしたい。
- ・子供たちの主体性を高める手段としてI C Tにはどのような活用方法が考えられるのか、授業での実践を残し、小中学校間での情報を共有したい。
- ・タブレットを使った部活動の紹介や、教科で作成した作品について、感想を交換するといった活動に今後取り組んでいきたい。

